

別本
君臣言行錄

十

蘇

漫錄

別本君臣言行錄廿二冊
酒井空印言行錄一名仰書錄
右庫行ノラニ全ク同レ

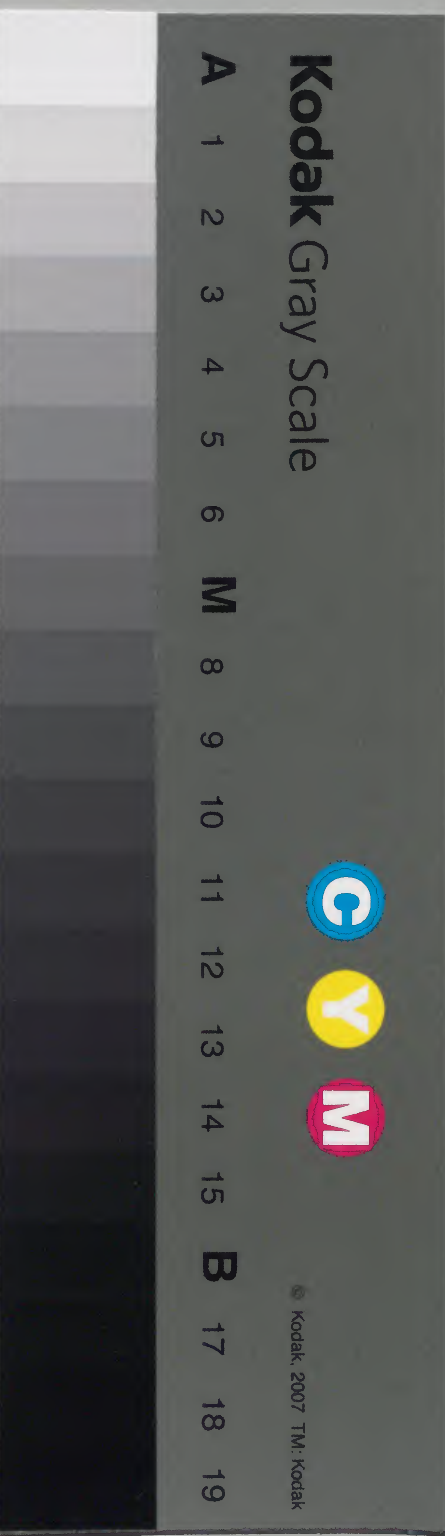
庫文閣内		和
一五八兩	三四五七〇	書
二〇架	二〇冊	類

186
取

内閣文庫	
番號	和 34570
冊數	20 (10)
函號	158 514

第一

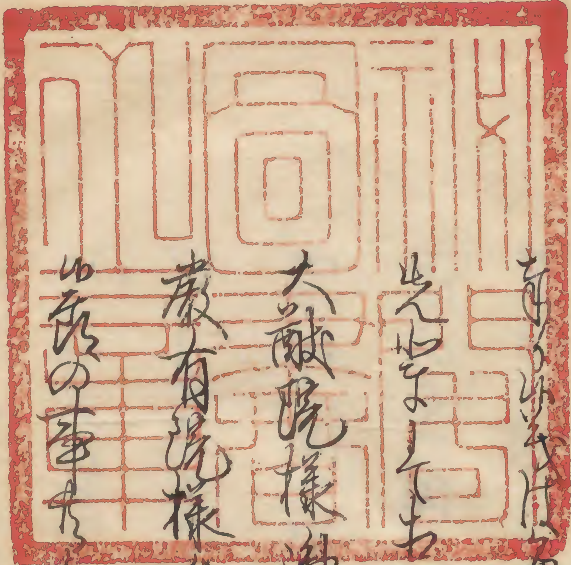
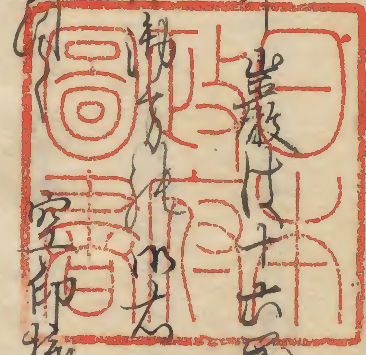
共二十





亡父願年 叢は十六歳の時

空印 極浄 名言 浄徳 以 ますの あらう 思はけ
しるす



先世より 勤彼は 物徳大 是あり とも 母願の 念人
大敵院 様 浄代

叢有 洗 様 浄代 引 けり 空印 願 専ら 四 勤 号 なる 所
山 岳 の 事 亦 存 念 の 人 も 修 多 あり 彼 是 物 徳 承 け 下 下

あり とも 中 せ け け け け け け け け け け 感 懐 け け け け
四年 夫 也 愚 老 今 年 七 十 四 歳 老 衰 任 希 方 是 居 け

とらぬのや... 中傳の是は御年十七の時より申大忠
晩成と申せしもの事なむと云ふ

一 竹千代様 家老に 御傳し附させられし内井雅直に忠告
吉井大物 利徳様より 任智も右様様と見し智仁
勇の之位を附させられ

吉井利徳 思ふより申上意より 雅直に實に御
心より御付けか行子代より 与れらるるや相傳
補佐の心より大物既に行子代相傳に御心
心より御付けか御心より 申上意より 御心
事雅直に御心より 御心より 申上意より

これより... 御心より 御心より 申上意より
一と補佐の心より... 御心より 御心より 申上意より
父子より行子代より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より
御心より 御心より 御心より 御心より 申上意より

御身おぼつかたはるは後小倉急合せぬ

一 大猷院様より頼世に於て御條治し計せられたる

一 頼世のまゝと急をまひぬ 忠勝様御條治しに付て

此の御條治しに於ては仕立も一色一色

公方様の御力に於ては御條治しに付ては仕立も

やと御尋ねぬ所は此の強河原の御料に於ては

此の大小の機嫌と扱へしに

公方様より御條治しに付ては御條治しに付ては

と御尋ねぬ所は此の強河原の御料に於ては

台榭院様の御條治しに付ては御條治しに付ては

依りて御條治しに付ては御條治しに付ては

うらむる御條治しに付ては御條治しに付ては

御條治しに付ては御條治しに付ては

利害戦斗に於ては御條治しに付ては

別々御條治しに付ては御條治しに付ては

元年の御條治しに付ては御條治しに付ては

一行子代様 將軍様より御條治しに付ては

御條治しに付ては御條治しに付ては

小田出立の御條治しに付ては御條治しに付ては

御條治しに付ては御條治しに付ては

子徳様と仰り此のけしき方成人一家お授けいたる若狭
まじ名のある一々心志さうくくんと仰り此のけし

一 忠勝様趣しるの事

権現様のさる事成代心くはめは法則くく大方ぬくは
崇敬なる所の中

行ふ代様 家老公 於国孫 忠長孫 此同くさく

権現様御前上りせし此の如嫡^庶の礼も成格別くくは
趣從祀流くおまへ公 忠勝様も右の事と申す申す
いよゝまかされたるはくく婿^庶の礼方^庶養^庶するはおまへ

趣從と為し二男之男成親重仕り一は國ふとく六國乃
礼を下に立てて天下の礼なる事後漢古今事
新く重なる事成親の事也

一 忠勝様名列の御京極若狭も御若狭を名
その名を御しつて御前やなせは位^庶九帝位御尋
の如く徳も存揚いあるは城の西のめく海初法
いふ御前を御景くくくんと仰り此のけし 忠勝様
御前御前上り^御物くく作ら此の中

一 大敵院様上名く御渡く若狭をくくせし此の甚悦
御中親の吸物と一切をくくせし御事なる事

大猷院様年々西下屋敷へ成せし山に泉水を
御山姓御書院書院水と流るる山に 止るる山に何
事も不般経の山又馬場を馬場を流るる山に
是又何事も不般経の山 止るる山に何事も
不般経の山に何事も不般経の山に
山泉水の山に何事も不般経の山に

一 小浜御城御天宮御造営の山に何事も不般経の山に
摺合好く山に何事も不般経の山に
山に海に山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に

有る流るる山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に

一 板倉御城御天宮御造営の山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に
山に山に何事も不般経の山に

とあるは魚鱗の如く費用夥しくおぼやかし
故にそのをうと仰かるる一又右邊依極より大なるを密楨と
入るべきは此の如く 右邊様は好むより此の如く及て其
この義も一に在りある一に世間より一に密楨を以て其
おぼやかしき事なれば其の何れ其傳方の中にも其
密楨の如くは一に其の如く一に大なるを以て其
よは今以て其の如く一に密楨を以て其の如く一に其
かたし其の如く一に其の如く一に其の如く一に其
柄の如く其の傳とて一に其の如く一に其の如く一に其
十十とて其の如く一に其の如く一に其の如く一に其

物候の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
以不審の如く 右邊様は其の如く一に其の如く一に其
一 尚も其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
と其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
この如く其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
以何れ其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
際るもの如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
は其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く
一 右邊様は其の如く一に其の如く一に其の如く一に其の如く

吾夜の月をふむ佐の如きは諸は活なり居睡り又
睡りて居る事なきは惜なり明なきは世に居るは
而も此の如き事なきは世に居るは世に居るは世に
居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは

一 三宅と吉原大目身役年久しくお勤め此も勤めなり
右務係名はなけしや何れも中事申す所なり
後お勤め必し吉原と申すは世に居るは世に居るは世に
居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは

事済むる毎に世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは

今一人何事か友人に御座りし事と申すは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは
世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは世に居るは

付ゆやうふまてしゆしハ蘇生する事ゆある尚ほ其ゆせ
て出閣するに申付留さるる下しハ閣と名をなれ其
仕事ふあつてゆその河津と名づく中ゆはそをよハか所
の敷の事ふも高きゆゆ會ハ^世拙名ハ年若くはゆゆ會
不中ゆハ拙名付留ゆゆしハ^世名をなれいハゆゆしハ
となつ中ゆゆはゆゆ中の敷ゆを不拙ゆハ家下年たけ
けよたハ若別津の若ゆゆハ^世ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
御の上ハゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
事ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

唯出靜ハゆゆの趣ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
て海と流ハ別標此若ゆゆ不役の事ゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 或時ゆゆ性既の若と百と折からゆゆ小村名の内ハ定後の衣類
と名ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
其ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一 京極若狭守忠方源平去るに執心嗣子なく少子仲家
断後よりお極公の御孫の家にお仕仕大津新田の忠常
と稱するに非ざるに御孫の御孫に下りて是より別母
腹の子一説嫡子刑殺 國許よりいふに依り九常と傳仲依
御一江守をたたり太山小見を九常と傳仲とて
宗上より忠常の御孫と傳仲とを御孫とていふに
忠常の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
子御の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
忠常の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
忠常の御孫とていふに依り九常と傳仲とて

付しにふとも中よきに依り九常と傳仲とて
た事よき忠常の御孫の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
御孫の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
下りて忠常の御孫とていふに依り九常と傳仲とて
一 忠勝源氏物語に我ハ昔衆ノ親ト云フ所ハありしに
御城大度間中へ伊達政宗公ハ行遇ハハ傳仲殿に
一書取申すト云フ所ハありしに依り九常と傳仲とて
取返大膽ト云フ所ハありしに依り九常と傳仲とて
事ハ合はざるに依り九常と傳仲とて
関ハ我ハ中一ト云フ所ハありしに依り九常と傳仲とて

より批らへそ右に役人より江表に用ひし事とせし物と
きりし事と知りし事とていふは不極て折節ハ七物と
ひらきし事とて中事よゆとて年ハ七の事ハ沙汰と
いふ

一 忠勝様右の御交り申定り申渡さる事
ゆく永井信濃守様 信春様より度好大あまの事ハ
我ハ先事とあり又ハ伐反の事ハいふ事ハ
不御の事ハいふ

おまゝに
おまゝに

一 忠勝様右の御交り申 万一上り強札逆縁人
禁裏様と取らぬ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
若列ハ山陰奥國の地ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ

一 忠勝様右の御交り申 万一上り強札逆縁人

一 忠勝様右の御交り申 万一上り強札逆縁人
此巡見の事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
第一この事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
之海氷ノ舟とていふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
少秋とていふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
いふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ

一 小旗を以て一極五畿内ハ代官司とていふ事ハ
この事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ
上様とていふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハいふ事ハ

侍...の忠告を...流...
侍...の忠告を...流...
侍...の忠告を...流...

大敵院様感悟を御儀候も...
大敵院様感悟を御儀候も...
大敵院様感悟を御儀候も...

忠告候と形母お人と愧入る...
忠告候と形母お人と愧入る...
忠告候と形母お人と愧入る...

御前...
御前...
御前...

忠告候と...
忠告候と...
忠告候と...

侍...
侍...
侍...

い...
い...
い...

一...
一...
一...

侍...
侍...
侍...

有...
有...
有...

子...
子...
子...

侍...
侍...
侍...

者取と承くはたお借居の事冬の事とありて
右とせしむる立勤を候る。るるなりとありて
休是す。一。定まの事ある。道中見をわたりて
とて。右とせしむる。計の頭巾とて。手自下とせしむる。様た
事は御志をたて。な存命とありて。ひけの志を
替り。なり。毎年中。此の流仕の。中右の。中を
大切に。侍り。常。由の。と。裁らせ。ま。た。孫。を。ま
曾地よ。裁らせ。け。事を。市。傳。の。費。得。不。流。仕。の。支。拂。と
忠務。派。は。所。を。大。切。に。な。れ。お。え。の。年。日。い。は。れ。な
遣。考。の。後。有。り。て。い。は。れ。な。年。日。い。は。れ。な

一 河合孫左衛門、京於の品書居お勤の 忠務派の
洋流仕の品書中出、太右左の、か、い、と、毎、流、流、仕、の
、此、の、日、後、の、中、流、流、仕、の、品、書、居、お、勤、の、
流、流、仕、の、品、書、居、お、勤、の、品、書、居、お、勤、の、
、い、は、れ、な、年、日、い、は、れ、な、
、い、は、れ、な、年、日、い、は、れ、な、
、い、は、れ、な、年、日、い、は、れ、な、

一 元日御前、小僧、品書居、知、お、る、若、死、い、ひ、け、の、志、を、
、手、自、下、と、せ、し、む、る、様、た、
、火、燈、の、中、に、居、り、て、い、は、れ、な、
、い、は、れ、な、年、日、い、は、れ、な、

とくはとて甚し可なりと云ふは多し廣く向てはよ
何れもあまの小僧の事なりと云ふは思ふ中
の事なりと云ふは感後仕の中

一 御前より此の性水田より御前状の封と御前紙
より真中申すことありと云ふは切替
知れぬことありと云ふは御前
事ハ御前申すことありと云ふは御前
百年と云ふは御前申すことありと云ふは御前
らと云ふは御前申すことありと云ふは御前
全体の御前申すことありと云ふは御前

一 塩漬の者味漬の和物
御前申すことありと云ふは御前
と云ふは味漬の上の風味を
御前申すことありと云ふは御前
御前申すことありと云ふは御前

一 忠勝御前
御前申すことありと云ふは御前
御前申すことありと云ふは御前
御前申すことありと云ふは御前
御前申すことありと云ふは御前

隠岐書 田傳授之由專く書き置きの良法也
其行極

一 都筑外記 兼應は忠務孫の田外孫元年若少く初

江戸へお侍の節田前へ百廿二日予の外孫らとて思ひ

家中の者へ對し礼儀を失ふ事かたきを懐せし

後少く此の中

一 忠勝孫或時其田伊豆を掃へ田堀積ありて作らざれば

其えぬ田家少く信吾の末無事の田お傳田在あつて

何れも田傳授を傳度れば後ハ私一方の儀を以て

公儀の田為とも存し中を傳授の事作らざれば伊豆も

田家少く丁寧の田ありて公儀の田為とも存し

御も包して田儀を以て田家の良法ハ傳代の者と不便なる

事と申傳は後田中兼 忠務孫作らざれば良法の根本と申す

之亦少く田家少くは但武切の田家とて田^田の用を以て

田家より田家田家とて田^田の意申るを田家の良法と

不復田家田家以上田物傳中とて田家の傳の振り中傳の禮

と礼とて田軍法の要領と申傳はは田家の何れお傳の儀

之田の中は田伊豆も田家の年故田家此上も田家の

田家田家の身居の中より大軍法の要領ハ禮儀と礼と

と^田の傳りも田士は田百姓ハ百姓を儀上下まの禮儀

礼とて田軍法自ら田中よの儀とて田家の儀

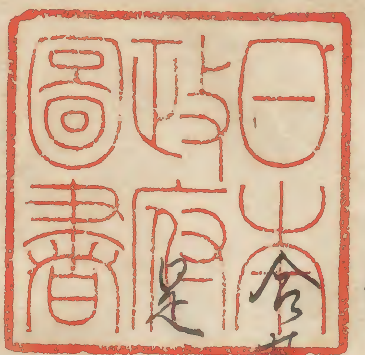
盜賊と云ふは如何之首を討つ^{追は}てし獄門は
之由と作らばし由

一 寛永十四年島原一揆刑戮の上使板倉内膳正極と
此作付由亦其内膳正極の病氣を免す此亦人作付
らむと云ふに及人方にお法をくし由 忠務亦作らばし由
内膳正極亦亦付けな由用を免さむと云ふに及自滅
是ま一人之病氣と云ふに及亦免す此亦人作付
死する此はまきらるる事と作らばし由一日殺延しぬと一味の
若も出来しは亦いふと何れも申す忠務亦亦
の事は一味と云ふは死する事と作らばし由亦亦と云ふ

内膳正極を免す由にお法をくし由内膳正極の病氣を免す此亦人作付
甚し内膳正極亦亦付けな由用を免さむと云ふに及自滅
是ま一人之病氣と云ふに及亦免す此亦人作付
死する此はまきらるる事と作らばし由一日殺延しぬと一味の
若も出来しは亦いふと何れも申す忠務亦亦
の事は一味と云ふは死する事と作らばし由亦亦と云ふ

一 大猷院様御新水の御事小御付らばし由年経々大赦の御事小御付らばし由古申す方教信と云ふ
けよと御付らばし由亦亦古申す方教信と云ふ
甚痛すせらばし由亦亦古申す方教信と云ふ
小御付らばし由亦亦古申す方教信と云ふ
此何れも申す古申す方教信と云ふ
古申す方教信と云ふ
おしく由亦 忠務亦亦と云ふに及亦亦と云ふ

の名を又四條上は乃有 為徳用の 上意の一ははと
心同しとあ事ともなりけりまはれよと見入るにせしむる
忠徳亦今一なりと云ふまはれよと大和も亦も其忠入
らばと云ふ 忠徳亦たのまをり作らば止むと云ふ
おろしと吾宗と四條とやへはまぶく教ふんせし
上意ありしは是の忠に君と徳をさすはる一其の
仁に徳と容るるをいふなり一其機徳を勧むること
再不及作と云ふは、真の心は徳のありなり再之
乃其機徳と換せしむるなり、真の仁君の心
あり法は天下の法を執り下りたり、其の法を以て



作上御上は俯く右の法に従ふに聞及るなり君臣
令せ天下と治らるるの基本也但し事は微事と雖も
と云ふ其の政令全作の心を忠実に依る事
事なり

